

「新海洋混合学」国際活動支援成果報告書（2016年度後期分）

2017年 1月 26日

計画研究班名：A01-1

申請者氏名・所属・職名：安田一郎・東京大学大気海洋研究所・教授

申請者連絡先 電話・メール：04-7136-6040, ichiro@aori.u-tokyo.ac.jp

対象者氏名・所属・職名：田中雄大・東京大学大気海洋研究所・特任研究員

対象者連絡先 電話・メール：04-7136-6047, tanaka-t@aori.u-tokyo.ac.jp

相手氏名・所属・職名：Dr. David Smeed・National Oceanography Centre

相手連絡先 住所・電話・メール：+44-023-8059-6407, das@noc.ac.jp

申請項目（複数可、数字を記入）：7

1. 国際共同航海の調整, 2. 拠点形成に関わる派遣・招聘, 3. 国際共同研究関連, 4. 研究者派遣, 5. 海外研究者招聘, 6. 研究技術研修, 7. 研究動向調査, 8. その他（ ）

申請課題名：水中グライダーを用いた混合観測についての研究動向調査

成果報告要旨（A4数枚以上図表・写真等を含む研究成果報告詳細版を別ファイルで添付すること）：

2016年 9月26日から29日まで、英国サウザンプトンでの、7th EGO Conference on autonomous ocean gliders and their applicationsに参加し、講演を聴講した。講演では、グライダーのオペレーション方法、極域でのグライダー観測、マイクロスケール観測、技術開発、生物・化学観測など、グライダー観測に関する様々な話題が発表され、世界各地で行われているグライダー観測の現状を知る機会となった。特に、乱流観測、流速観測については、未だに報告例が少なく、これから研究が進められる分野であるように思われた。また、自身が行ってきた千島海峡でのグライダー乱流観測結果に関して、海外の研究者と意見交換した。

全体計画・計画研究への寄与：

自身のグライダー観測結果について、この会議で指摘された点を修正し、今後論文化したいと考えている。また、来年度以降も、グライダー観測を行う航海が予定されており、運用やデータ解析において、役立てたいと考えている。

制度の改善点・感想等：

東京大学大気海洋研究所の安田一郎教授と小林奈緒美さんには、会議参加のための事務手続き、準備などで大変お世話になりました。感謝申し上げます。

実際の日程：

2016年

9月25日：東京成田発・ロンドン着

9月26-29日：サウザンプトンにて会議に参加

9月30日 - 10月1日：次の米国での会議まで待機

10月2日ロンドン発・米国サンディエゴ着

使用した予算内訳（旅費とその他の経費に分けて記述）：